

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」検討・準備グループ
における主な意見

【検討・準備グループ（第1回）＜平成28年5月19日＞】

〔英語4技能評価〕

- 資格検定で賄えば英語試験は必要ないという先生はいる。英語試験の学内実施にこだわるのは英語以外の先生の方が多い。
- 4技能実施が前提ということになっているが、平成32年度からすぐ導入しなければならないものでもない。
- その場合、4技能を実施しないということについて、周囲に受け入れられるかどうかが重要である。プロセスを踏んで平成36年度以降実施という整理もあり得る。
- 民間委託の場合は、センターのチェック体制がかなり大変になるのではないか。
- 大学における資格検定試験の活用状況を押さえなければならない。そもそも同一日一斉実施でスピーキングを実施することは難しい。
- 大きな流れとして高校の評価も大きく変わりポートフォリオ活用が進めば、試験だけがすべてということでもなくなってくる。これは英語だけの問題ではない。
- 英語4技能を議論している経緯は、入試で1、2技能であると高校教育でも1、2技能を重視せざるを得ないという英語以外の先生からの依頼が大きかったことがある。
- 英語の評価結果については、世界的に通用するものであった方がよい。センターや民間委託で実施するよりも資格検定試験を活用した方がよい。資格検定試験であれば世界的にも通用するし、コストも削減できる。
- 資格検定試験活用は大賛成である。資格検定試験団体の意識も変わってきている。そのうえで、大学が資格の国際通用性の確認や入学者のフォローアップなどを行い、どんどん良くしていけばよいのではないか。
- 各団体の検定料の開きも大きく、そのまま活用することは難しいのではないか。どういう能力を測りたいかも重要である。
- 入学者選抜となると資格検定試験の質をコントロールする体制は必要である。
- 検定は選抜とは異なる。ある程度方向性や必要なスペックを示さないといけない。それぞれ特性を持っている民間検定試験をどう整理していくか。センターでフォローすることは必要かもしれない。
- 民間で実施した場合、リスニングとスピーキングをセットで実施できるか検討する必要がある。
- 活用する高校や大学の意見も重要である。
- 検定試験の点数化はやめた方がよい。検定試験結果の活用については個々の大学の判断に任せた方がよい。
- リスニング、スピーキングは同時実施が可能か。ヘッドフォンなどを活用すれば一斉実施もできるのではないか。